

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和5年 3月 7日

公表: 令和5年 3月 15日

事業所名 あみぶらす3

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		○指導室を広くとっており、十分なスペースがある。	特になし
	2	職員の配置数は適切である	4	3	○個別対応が必要な子に人員が割かれてしまい、十分とは言えない。 ○足りない日もあるが、チーム分けや担当を決めることで対応できることが多い。	○パートを中心に採用を急いでいますが、近年応募数の減少、採用基準外の方からの応募率の増加など、採用自体が困難になってきているのが明白です。採用方法の見直しに取り組んでいます。 ○チーム制は引き続き行い、子どもたちが集中しやすい環境づくりに注力することで、人員不足をカバーしていきます。 ○医療ケアのできるスタッフの確保を急ぎます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1	○二階に位置するため、階段の昇降が必須。	○当面解消できる見込みはないため、階段昇降が可能な子に限定した受け入れを行っています。 ○2階はフラットなフロアです。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		○ショートミーティングを行い、PDCAを行っている。	○パート職員はシフト制のため、休みの日でも情報共有できるツールを検討します。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	○建物など物理的な改善を図ることが困難。	○いただいた意見は尊重し、検討していますが、困難なことも多く、代替案の提案にとどまっています。 また匿名のアンケートのため、意見者の真意を伺うことができず、もしかしたらヒントのずれた回答になってしまっているかも知れません。 ○対処可能なものは積極的に対応し、改善を図りたいと考えています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		○ホームページ内で掲載しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1	○第三者評価を行っていない。	○現時点では第三者評価を検討していません。多額の費用がかかるため、支援に必要な設備や備品、人件費等にその費用を割いた方が有益だと考えています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		○研修案内を告知し、参加を促している。	○研修参加を促し、その参加実績は賞与や人事評価に反映しています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		○ヒアリング不足でニーズが少し不明確であるが、作業療法士が評価と分析を行っている。	○昨年9月に大規模な人事異動を行った後、正職員1名が産休・育休に入ってしまったことから、従来からの子どもの様子、ご家庭の様子を知る職員がほとんどいなくなりました。 半年以上が経過し、随分様子も把握できてきましたので、改めてアセスメントを行い、支援計画もよりよい内容に見直していきたいと思えます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	○作業療法士が感覚プロフィールを行う。	○感覚プロフィール分析を導入しました。現状改善点はなし。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		○正社員が中心となり行っている。	特になし。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		○個別にプログラムを立てている。 ○バランスよく訓練できるよう、曜日ごとにプログラムを変えている。	○新年度に向けて、プログラムの内容の見直しを行っています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	○個々に目標ラインの設定を見直す。 ○休日や長期休暇は外部での体験を増やすなど、平日ではできないことを用意している。	○平日は時間的に集団活動が中心になってしまうが、個々の能力に合わせた小集団活動を導入しました。 ○休日は社会適応、視野の拡大等の目的で、積極的に外に出て、日常生活ではできない経験を多く積むようにしています。 ○長期休暇は個別支援を行う時間が十分とれるため、集団活動、社会適応訓練に追加して個別支援を行う時間を取るようしていきたいと考えています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7		○子供の能力にもよるが、個別、集団を意識して計画作成している。	○滞在時間が1時間を切るケースもあり、そのうちの約30分が集団活動、準備、片付け時間を含めると、実際には個別活動に取り組む時間がないケースもあります。長期休暇等十分に時間が確保できる時に集中的に取り組むたいと考えています。

供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		○毎日ショートミーティングを実施している。 ○長期休暇や朝から利用がある日は難しい時もある。	○休日、長期休暇になると、職員の出勤時間より早く送迎を依頼されることもあり、労働環境の観点から、さらに打ち合わせを行うということが困難です。 労働基準法など、様々な法律を遵守しなければならず、まずは行政側がPDCAを回し、現実的に無理のない制度、事業者への要求をしていただきたいと願います。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4	○当日の振り返りはできていないが、翌日のショートミーティングで行っている。	○事務作業、支援準備、各種打合せ、庶務・雑務等々、職員の業務量が多く、労働環境の観点から、さらに支援後にその日の振り返りを行うということが困難です。 労働基準法など、様々な法律を遵守しなければならず、まずは行政側がPDCAを回し、現実的に無理のない制度、事業者への要求をしていただきたいと願います。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	○日報記録はとっているが、詳細を書ききれていない。ショートミーティングで議論は行っている。	○現在の日報記録は紙ベースで情報量も少ない。ITツールを導入し、業務効率化を図り、その分情報量を増加し、共有化することで検証、改善につなげていきたいと検討しています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		○最長でも半年ごとに見直している。	○OTIによる感覚プロファイルを導入したため、分析ができ次第、支援計画の見直しを随時行っていききたいと思います。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7		○地域交流の機会が少ないが、他の項目は行っている。	○自立支援を中心とした療育活動、土曜日を中心とした余暇活動、適宜創作活動を行っています。地域交流は、コロナ禍の影響もあり、あまりできていません。今後は地域交流活動も復活させていく予定です。	
	関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		○児童発達管理責任者が参加している。	○サービス担当者会議の開催自体があまりありません。相談支援事業所からの呼びかけを待つことが多いですが、必要であれば、当所からも開催の呼びかけを行っていきたく考えています。
		21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		○保護者や学校からの情報提供。 ○送迎時に保護者へ報告。	○学校からの下校時刻の発信が遅いことが多いことが悩みとなっています。学校の事情もあるかと思いますが、特に要望は出していませんが、保護者様への通知が遅れてしまう結果になってしまうため、学校との連携を強めていけたらよいと感じています。
		22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2	○主治医の連絡先は把握しているが、実際にやりとりはない。	○現状では主治医等と連絡を取る必要性がありませんが、万一に備え、連絡先は契約時に確認をしています。
		23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2		○特に連携を図っていません。 今後は事前情報として、連携強化に取り組んでいきたいと考えています。
		24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2	○該当者なし	特になし
		25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	○今後関係を深めていきたい。	○様々な視点から多くの意見を聞くことは重要だと思いますので、積極的に活用していきたいと思っています。
		26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5	○コロナ禍により自粛中。	○コロナ禍の影響から交流を控えていますが、今後機会を増やしていきたいと思っています。
		27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	5	○少しずつ参加していきたい。	○考え方や価値観の違いを感じ、ほとんど参加せずに来てしまいました。時間的な問題もありますが、少しずつ参加していきたいと考えています。
		28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		○送迎時に意見交換を行っている。 ○今後、まとまった時間をとり、話し合う機会を増やす予定です。	○送迎時の限られた時間ですが、毎日の積み重ねにより、相互理解できているケースが多いと感じています。今後は、家庭訪問等しっかりとした時間を設けてより深い情報共有を図っていく予定です。
		29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2	○作業療法士が専門的視点で評価し、それを元にサポートを行う。 ○療育に精通した保護者様も多いため、全員ではないが伝えている。	○ペアレントトレーニングの重要性は感じているものの、考え方の違いから衝突してしまうこともあったため、取組みにくい問題ではある。しかし、質問や相談をいただいた場合や、話を切り出せる場面では、成功事例などを通じて支援させていただいております。
		30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		○契約時に一時間ほどかけて説明している。	特になし
		31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		○29ペアレント・トレーニングの項と同様です。

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	3	○コロナ禍により自粛中。	○コロナ禍の影響から開催を控えていますが、秋の運動会の観覧、冬の支援風景の参観及び保護者の交流会等、開催を復活させ行く予定です。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	○怪我や急病時のお迎えのルールについて要望を頂いているが、まだ対応できていない。	○日常的なことについては、都度対応しております。緊急時(ケガ、災害等)によるお迎えのガイドラインの要望を一部保護者様から頂いておりますが、今だマニュアル再整備ができていません。マニュアル類が膨大にあり、9月異動等により内容の修正箇所も多くなっており、またこれを機に全面的な見直しも行っていきます。時間がかかって申し訳ありませんが、順次改訂中ですので、でき次第皆様に配布します。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		○毎月の予定表、チラシ配布 ○毎日Instagramの更新	○業務効率化のためITツールの導入を検討していますが、その機能に保護者様への通知機能が含まれるかもしれません。現在の通知方法からシステムを通じての案内に変更する可能性があります。
	35	個人情報に十分注意している	7		○鍵をかけて保管している。	特になし
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		○絵カードを使用したり、分かりやすい言葉を使うなどしている。	特になし
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6	○コロナ禍により自粛中。	○地域住民も巻き込んだイベント企画もしていきたいと考えていますが、やるべきことが多すぎてなかなか具体化できていないのが現状です。なるべく早目の開催を目指したいと思っております。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	2	○現在見直し中であり、周知できていない。	○マニュアル類が膨大にあり、9月異動等により内容の修正箇所も多くなっており、またこれを機に全面的な見直しも行っていきます。時間がかかって申し訳ありませんが、順次改訂中ですので、でき次第皆様に配布します。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	3	○年2回実施している。	○実施の内容が保護者様へ伝わっていないケースが多いようなので、実施の周知をより行っていきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		○毎日確認している。 ○年に数回研修もしている。	○研修計画に沿って、虐待に関する意識を高めていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1		○想定外で起こることについて、どのように対処するべきか困惑する。制度の精度を高めていただきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2		○医師の指示書は提供してもらっていない子がほとんどです。食物アレルギーのある子は、保護者に提供依頼していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		○毎日確認し、挙がった事例は記録して改善策を実施している。	特になし